

講演「目からうろこの実践的防災・危機管理」（概要メモ）

講師：山村 武彦 防災システム研究所所長

「目からうろこの実践的防災・危機管理」をテーマに、体験に基づいた講演が行われました。

講演内容は、1. セルフディフェンス（自守防災）の基本原則、2. 大規模地震に備える実践的防災・危機管理、3. 災害現場に学ぶ知識と知恵の点から、災害現場における豊富な経験に基づいたものとなっています。以下に、その概要を紹介します。

1. セルフディフェンス（自守防災）の基本原則

自分の命、自分の家族を守ることの大切さ、行政、地域、家庭、個人として守るべき優先順位があること、本当に守るべき安全のコアが必要であり、そのためには具体的な目標が大事であることが示されました。

さらに理解することの重要性について、駐車禁止記号を例に挙げ、わかっていると思っていることもわかっていないことが多いこと、禁止記号の意味（NO）が分かっているだけで間違えることもないので意味を理解させることが必要であること、救命胴衣でも大人と子供がいればまず大人から着用すること（大人が意識不明となれば子供と共倒れとなるため）、自分が倒れれば人を救助できないこと等が説明されました。

火が出た場合にも、初期消火に努めるのではなく、「火事だ」と知らせることの重要性。知らせる、消す、助ける、逃げる、の優先順位を理解すること、緊急連絡網の連絡も上位から下位に順番に連絡する方法では役に立たないこと、連絡は魚網のように相互に連絡し合い大きな穴が開かないようにすべきであること等、実践に即した事例が説明されました。

また、安全と安心は異なること、安全であっても信頼感が欠けていけば安心できないこと、世の中が求めているのは安心であること、信頼感がないと安全も進まないこと、安全と安心は車の両輪であること等が紹介されました。

2. 大規模地震に備える実践的防災・危機管理

危機管理上、リスクアセスメントが重要なことが紹介され、「リスク＝結果の重大性×発生確率」であることから、優先リスクと割愛リスクの関係が説明されました。宮崎県日向灘地震を例に挙げ、リスクの確率と結果の重大性から、最もリスクが大きくなるものを中心に対策を進め、後は割愛すること等が説明されました。

企業の事業継続にウエイトをかけることの重要性が指摘され、テロや災害時に優先順位を定めどの事業から立ち上げるかの目標設定が必要であることが示されました。

スマトラ沖地震、米国のハリケーン被害の状況の紹介と共に、宮崎での昨年14号台風被害時の早期の避難指示について紹介がありました。

また、避難準備情報は、高齢者等は避難を開始してくださいということ、それが知られていないこと、原則は早期自主避難であることが指摘されました。

さらに、ラジオ、懐中電灯など防災グッズも自分用に普段から準備しておくことの重要性や備蓄も重要であることの指摘などがありました。

3. 災害現場に学ぶ知識と知恵

震度6強の揺れがどのようなものかの映像が紹介され、このような状況のときは自分の身を守ることが精一杯であること、机の下に潜るから実践的なものに変える必要があること、また、関東大震災の際も小さな揺れが続いたときに火を消し、脱出することが可能であったこと、そのためにも訓練が必要であることが指摘されました。

災害時に皆が避難すれば誰が火を消すのか、誰が助けるのか。阪神大震災の際、自力脱出困難者を助けたのは77%が近隣の人であったこと、自主防災は自ら守る自守防災が重要であることが指摘されました。

普通救命講習会が重要であること、災害時にその場に車を止めてキーを付けて脱出は誤りであること、放置された車で緊急車両が通れなくなるため車は横道か駐車場又は歩道に乗り上げ幹線を確保しておくこと、行政も一時的には被災者となること、72時間生き残る方策が必要であること等、数多くの災害現場を見てきたからこそ言える実践的な指摘が多くなされました。

阪神大震災の際、麒麟麦酒がビールビンに飲料水を詰めて被災地に送ったことを例に、災害時の企業の社会貢献計画が必要であること、また、山古志村の土砂災害を例に孤立を前提とした備えが必要であることも指摘されました。

最後に、新潟地震における勇太君の奇跡的救助が紹介され、ブラジルサンパウロの火災時の奇跡と併せ、子供を救った母親のことが語られました。防災とは難しいものではなく、本当に守るべき大切なものを、優先順位をつけて守りぬくことであると述べられました。